



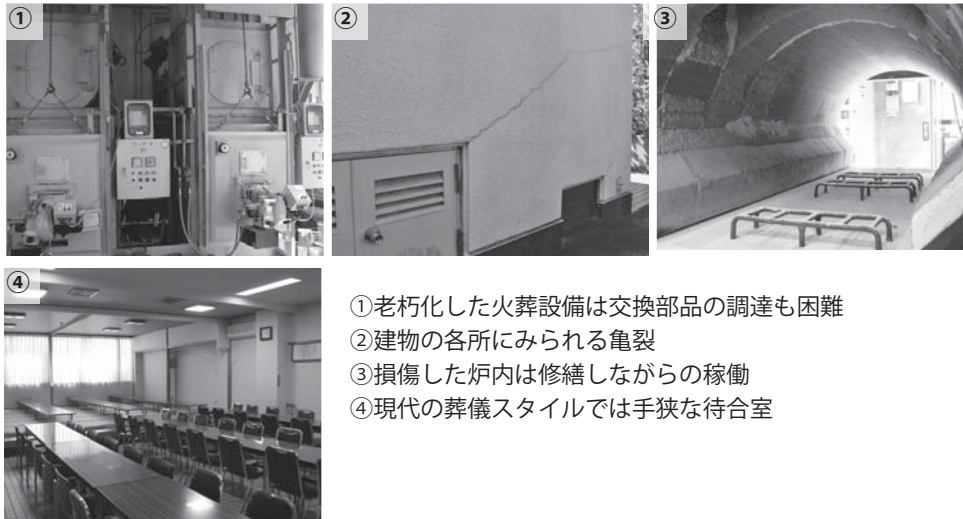
供用開始から31年が経過している長岡斎場は、火葬設備や施設の老朽化をはじめ、多くの課題を抱えながら稼働しているのが現状です。火葬場は、人生の最後のお別れをする場であり、また、地域社会の中で、なくてはならない公共施設です。

そこで、市では施設整備の検討を始めるにあたり、市民の理解や協力が不可欠な重要事業であることから、検討の進展状況などを全3回に分けて、市民の皆さんにお知らせしていきます。

市役所環境政策課 ☎ 055-949-6804

人生最後の お別れの場を考える

火葬場の整備に向けて検討を始めます



- ①老朽化した火葬設備は交換部品の調達も困難
- ②建物の各所にみられる亀裂
- ③損傷した炉内は修繕しながらの稼働
- ④現代の葬儀スタイルでは手狭な待合室

【施設概要】

名称	伊豆の国市長岡斎場
所在地	伊豆の国市長岡 1407-4
供用開始	昭和58年4月～/ (待合室2)平成3年3月～
敷地面積	2,130㎡
建築構造	鉄筋コンクリート造、 鉄骨平屋建て(待合室2)
建築面積	421.92㎡
火葬炉	台車式円形炉 2基 *燃料:灯油
汚物炉	45kg/回炉 1基 *燃料:灯油
その他施設	待合室1、待合室2、事務室、収骨室、 駐車場(普通車30台・大型2台)、 トイレ(男・女・多目的)

【施設使用料】

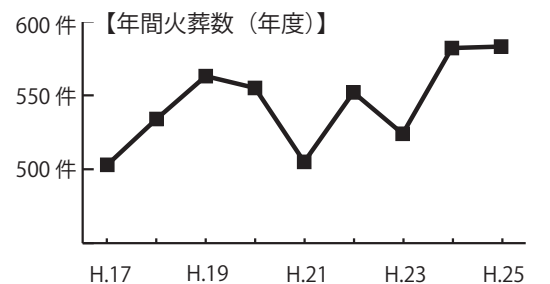
種別	市内	市外
大人(12歳以上)	5,000円	30,000円
小人(12歳未満)	3,000円	18,000円
胎児	2,000円	12,000円
その他 (身体の一部)	2,000円	12,000円

長岡斎場の現状と課題

①施設能力を上回る火葬数

昭和58年4月に供用を開始した長岡斎場は、年間400件※の火葬数を想定して整備されました。しかし、現在の火葬数は年間500件を超えており、また、人口推計によると2035年まで死亡者数は増加し続けるため、今以上に火葬数が増加するのは確実です。

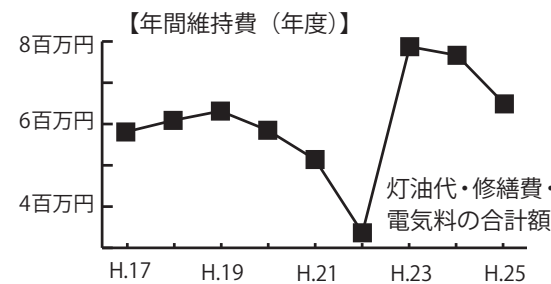
※現在の長岡斎場は、供用開始時から旧3町の人たちの利用が見込まれていました。



②老朽化や燃料費高騰などによる経費の増加

長岡斎場は、全国的に見ても平均的な稼働年数を上回る施設です。建物や炉のみならず、施設の劣化は各部で発生しています。現在は、劣化した箇所をその都度、修繕しながら稼働させています。

また、灯油や電気料金などは年々高騰しており、維持費は増加傾向にあります。



③利用者ニーズへの対応

平成3年に待合室2を増設して以降、大規模な設備の増改築もなく、ほぼ供用開始当時のままの長岡斎場。決して、現代における葬儀形式の変化に対応しているとは言えず、利用者の皆さんには不便をおかけしています。

- ・駐車場の慢性的な不足
- ・待合室の収容能力の不足
- ・待合室と離れたトイレ など



近年は、多くの人が自家用車で移動するため、不足しがちな駐車場

これからの動き

火葬場の整備については、市民の皆さんの声を聞きながら、現施設の課題や利用者ニーズを考慮し進めていきます。今後は、

①人生の終えんの場にふさわしい厳粛さと安らぎのある施設

②ユニバーサルデザインの理念に基づき、誰にでも分かりやすく使いやすい施設

③周辺環境と調和した景観を持たせた施設
以上、3つの基本的な考え方に沿って、今後の火葬業務に支障をきたさないように、火葬場の整備について、今年度から検討を始めます。

ー予定ー

今年度 「基本構想」を作成



次年度以降 「基本計画」を作成

